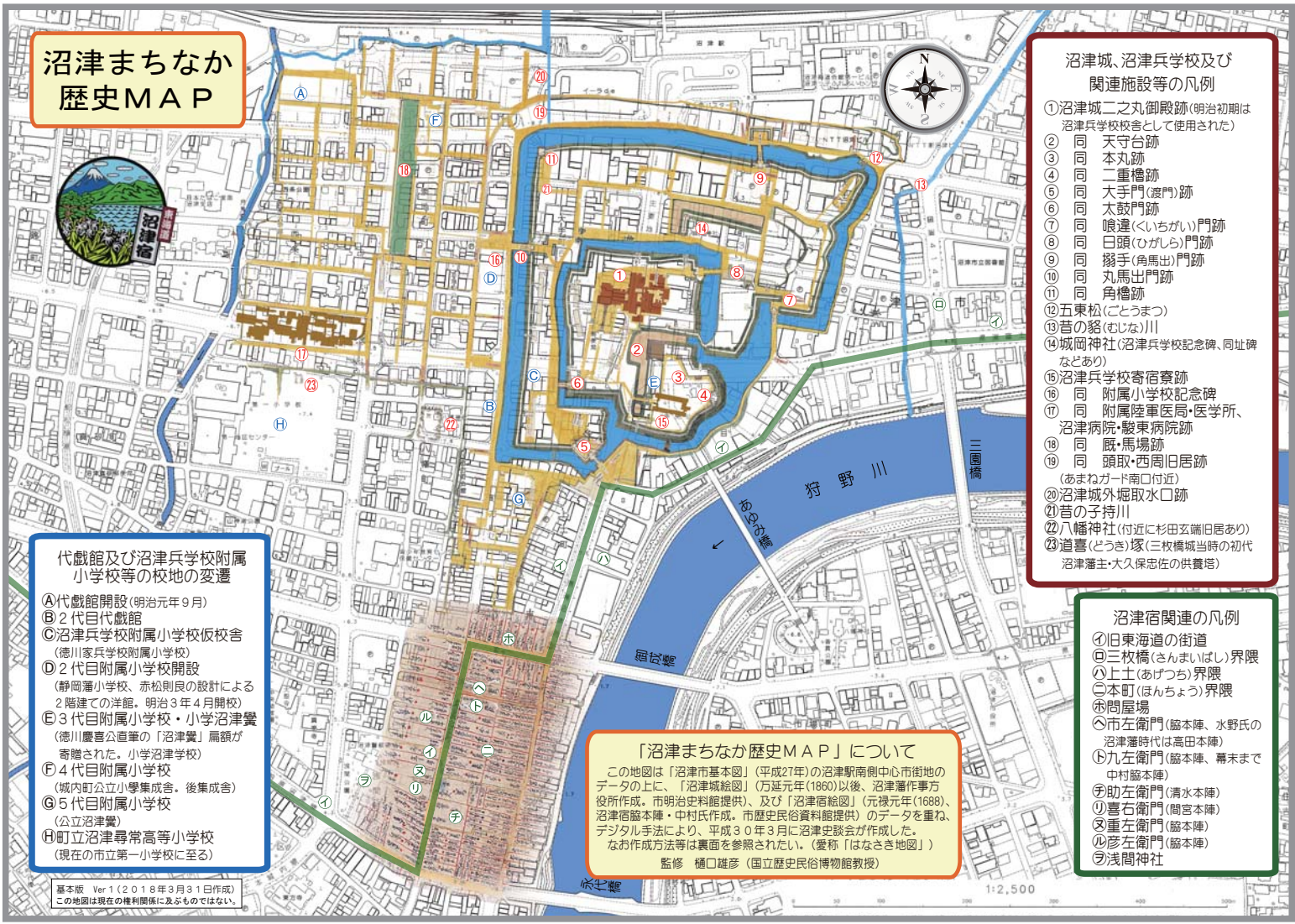


城下町・宿場町のまちづくり事業

～沼津まちなか歴史MAP作成～沼津史談会



沼津城絵図及び今回の歴史MAPについて

万延元年(1860)以後に沼津藩作事方役所によって、城郭・堀・土塁・門・本丸・二之丸・三之丸・侍屋敷などが、細かく正確に作図されている。本絵図は昭和40年代初期に、沼津市外在住の沼津藩の子孫の方より沼津市に寄贈があり、沼津市立駿河図書館(現・沼津市立図書館)に移されたものである。(中略)本絵図には三之丸の北側に馬出門が描かれているので、万延元年以後に作成されたものと推察される。(沼津市史 別冊「絵図集」より抜粋)

今回「沼津まちなか歴史MAP」作成に当たっては、この絵図の画像を市立図書館から移された市明治史料館から提供を受け、詳細に検討した結果、国土地理院作成の沼津市基本図による地形地物と多くの部分で一致していることが判明した。この絵図が平板測量などを厳格に実施し、極めて精緻な絵図として完成させたものと考えられる。

沼津まちなか歴史MAP作成に際して、重ね図の精度を高める上で、特に沼津城絵図に描かれていない共同井戸などの位置に着目した。しかし数ヶ所の現地調査を経て、現在残っている井戸が江戸時代のまま存続していることを確認することはできなかった。

また沼津城外堀北側の位置についても3ヶ所の地質調査結果を入手し、関係者へのインタビューや工事現場での状況確認を踏まえて検討した。その結果、外堀北側の位置をほぼ確定することができた。なお現時点では、このMAPでの沼津城の構内位置に関する精度は、プラスチック製1メートルと見込まれる。今後さらに当初目標の、5メートルまで検討を深めたい。



沼津兵学校位置図 (沼津市明治史料館提供)

大正4年(1915)2月発行の旧藩館の報録誌「同方会誌」第38号所載の沼津兵学校第4期卒業生・石橋輝彦が描いたと思われる図。太鼓門の西側の建物は「仮小学校」の文字があることから、明治2年ごろの城内の様子を描いたものと考えられる。

二之丸御殿には「旧兵学校」、本丸跡には「生徒寄宿舎」の文字があり、各門の位置や名称も正確である。天守台跡や角櫓跡には建物がなく、本丸跡の東側には「天守櫓」の文字と建物の形が描かれているが、三重櫓があった天守台の位置とは異なる。

石橋は、沼津兵学校時代から約45年経った大正4年2月、60歳を過ぎてから初めて「同方会誌」の「沼津兵学校沿革(一)」にこの図を発表した。その後、大正9年まで12回にわたり、同様な論文などを掲載しており、兵学校に学び、寄宿寮に暮らした人物が残した貴重な歴史的証言となっている。

「歴史を生かした沼津のまちづくり」のために

武田氏が築いた三枚橋城は、初めて沼津藩主となった大久保忠佐が豊長18年(1618年)に77歳で死去し、嗣子がなかったため19年に取り壊された。その後、沼津は宿場町の性格を強めていくが、三枚橋城から約160年が経過した安永6年(1787年)に水野宗友が沼津藩主となり、三年後の安永9年(改元して天明元年)12月には沼津城が完成した。この城は平初年時代でもあり難事な運り、三枚橋城と比べて規模も三分の一程度にとどまる。

明治になって徳川家が駿河に移ると、沼津城二之丸御殿は徳川家・静岡藩が設置した沼津兵学校の校舎となったため、一転して時代の先端を行く最高学府が沼津に誕生したのである。兵学校の校舎や宿舎がある沼津城の最後の数年間は、それまでの存在と異なった大きな役割を果たすこととなり、附属小学校や医局・医学所も設置され、沼津藩の賑や馬場も兵学校が利用することとなった。

三枚橋城の遺構の一部は現在、上土地区のホテル付近に展示されており、沼津城の遺跡は本丸跡の中央公園周辺に集中している。こうした歴史の記憶の上に「沼津まちなか歴史MAP」で明らかになった、沼津兵学校関連施設の史跡を加えて、市民や来街者が目で見ながら分るようしていくためには、モニュメントやオブジェ、案内板などを整備していくことが求められます。

平成30年3月31日 沼津史談会

沼津史談会は、平成29年8月から30年3月までの間、市民参加で歴史MAPの作成に取り組みました。

今後は、来年1月20日開催の沼津兵学校創立150周年記念式典に合わせて発表する『沼津兵学校記念誌』にこの地図を掲載すると共に、「まちづくりの提案」を行う予定です。

その中では、特に中央公園の東側にあった「二重御櫓」の復元のために、想像図や復元計画を示していきたいと考えています。